

鯖江市議会・市民創世会

大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)-52-7488 携帯 090-6810-2462

6月議会一般質問

1、保育所（保育園）・幼稚園・ 認定こども園について

○保育所（保育園）とは

保護者が働いているなどの何らかの理由により保育に欠ける児童を預かり保育することを目的とする通所の児童福祉施設。0～5歳まで。（厚生労働省所管）

○幼稚園とは

小学校就学までの幼児を教育し、年齢に相応しい適切な環境を整え、心身の発達を助長するための教育施設。3～5歳まで（文部科学省所管）

○認定こども園とは

幼稚園および保育所等における小学校就学前の子供に対する保育および教育（幼保連携）並びに保護者に対する子育て支援の総合的な提供を行う施設であり、都道府県知事が条例に基づき認定する。0歳～5歳まで。



市立認定ゆたかこども園

○認定区分とは

以上の三種類の施設を利用するには、鯖江市から

利用のための認定を受ける必要があります。

1号認定・教育標準時間認定

3歳以上で保育を必要としないお子さま。

利用施設 幼稚園・認定こども園

2号認定・保育認定

3歳以上で保育を必要とするお子さま。

利用施設 保育所（保育園）・認定こども園

3号認定・保育認定

0～3歳未満で保育を必要とするお子さま。

利用施設 保育所（保育園）・認定こども園



○鯖江市における現状と整備計画

認定こども園は

- ①保護者の就労状況の変化や、出産・育児休暇などに関わらず同じ施設を利用出来る。
- ②保育所の利用が伸びている一方、幼稚園の園児が減っている。2つの施設を一体化することにより問題の解消につながり、適度な規模を維持できる。
- ③子育て支援の場が用意されていて、園に通っていない子どもの家庭も子育て相談や親子の交流の場などに参加できる。
などのメリットが期待できます。

現在鯖江市では2つの認定こども園がありますが、今後整備を推進し、将来は市内どの地区でも希望に沿った選択肢を提供できるようにしたいとの事です。

○保育料について

保育料は国の基準に基づき、各市町で独自に設定しています。2、3号認定における保育料について鯖江市は越前市や福井市と比較してほぼ同じレベルか、階層（所得区分）によってはやや割安な設定となっています。（階層の分け方、年齢区分など画一的ではないため、単純な比較は出来ません）

一方、1号認定における保育料は越前市、福井市とも昨年度に階層を設けて改定を行いました。ただ、1号認定は保育料とは別に給食費、雑費が必要となるため注意が必要です。（これは施設の成り立ち、所管の違いに起因しています）

また、多子軽減（大まかには第2子は1/2、第3子以降は無料）の措置もあります。

市長、教育長の見解は、鯖江市も近隣市町の動向を見て、改定の必要があるとの事です。

答弁の要旨は

- ①入園料（入園時）は廃止の方向で検討。
 - ②ひとり親、多子世帯への配慮。
 - ③新年度に向け、新たに階層区分を設けた料金改定を進める。
- との事です。これからも、子育て環境の改善に努めていきます。

2、公共施設や公園における

安全対策について

市役所や公共施設、公園は一般市民の方が沢山訪れます。当然、安全が最も重要です。

そこで、日頃の安全対策を質問しました。

○市役所の安全対策について

- ①降雪時における玄関スロープは、滑り止めのカーペットを敷くなど、安全対策を講じてい

る。

- ②雨どいから流れる水が厳冬期は凍結して危険である。排水方法を見直し改修する。



改修を終えた市役所西玄関

○小学校、中学校の安全対策について

- ①教職員が月に一度担当個所の点検を行っており、不備な個所はすぐに改善、修理などの対応をしている。また、建築基準法の規定により、建物については2年に一度、設備については毎年、建築士による検査が義務付けされており、建築営繕課の建築士が実施している。
- ②小学校、幼稚園の遊具については、年一回専門業者による安全点検を実施している。
- ③児童生徒への安全教育は年間計画に従い実施している。

○西山公園の安全対策について

- ①パークサポートLLPが指定管理を行っており、毎日園内を巡視している。発見された危険個所はカラーコーンや規制線により注意喚起するなど迅速に対応している。



つつじ祭りの頃の西山公園

○積雪期の安全対策について

- ①落雪がありそうなところはカラーコーンや看板などで注意喚起している。
- ②トイレなどスリップしやすい場所はムシロ等を敷いて凍結に備えている。

③凍結で危険が予想される園路、スロープや階段は必要に応じて注意喚起や立ち入り規制を設けるなどきめ細やかな安全対策を検討する。

北陸新幹線 新北陸トンネル視察

●総合戦略特別委員会視察

建設中の北陸新幹線新北陸トンネルを視察してきました。



新北陸トンネルは全長 19,680m。全体を 6 区画に分けて掘り進んでいます。今回視察したのは大桐工区で全長 3605m。熊谷組がメインの企業体が担当しています。



トンネルの中から出る濁水は、浄化槽にて汚れを取り除き、PH調整したあと、川に放流しています。自然界に影響を与えないよう配慮されており、溪流に流れる水は濁りの無い綺麗な水でした。

掘り出された岩石（ズリ）はベルトコンベアーで地上まで運ばれ、ダンプに積み替え処分場（水田の地盤改良に使われるとの事です）に運ばれます。ダンプカーのタイヤはシャワーで泥を洗い流し、道路が汚れな

いような対策をとっていました。

鯖江トンネル（三里山）も熊谷組がメインの企業体が施工することになりました。



市民創世会視察報告

●子育て環境日本一を目指し・・・栃木県矢板市



矢板市は「子どもにとっての幸せ」という視点を強化し、すべての施策の真ん中に子どもを据えながら、行政は子ども・子育て支援を量と質の両面から充実させるとともに、家庭を中心に、学校、地域、企業、その他社会を構成するすべての人が、子ども・子育て支援に関する関心や理解を深め、協働し、それぞれの責任と役割を果たすことで、矢板市に暮らすすべての子どもの健やかな成長と、家庭を築き子どもを産み育てたいと願う人々の希望が満たされる社会の実現をめざすこととします。

（やいた子ども未来プランより）

という基本理念のもと、様々な施策を打ち出しています。例えば

- ①第3子に対する保育料の原則無料化（制限条件撤廃）を他自治体に先駆けて実施。（鯖江市も県の施策に基づき原則無料化を実施しています）
- ②一定の条件のもと、第2子以降出産の際、祝い金を支給。（3万円）
- ③子育てに関する業務を一括して「こども課」を設置。（保育園、幼稚園、こども園を一つの窓口に）

鯖江市も子育てには大変力を入れて取り組んでいます。子どもは地域の宝であり、将来への希望です。よりよい子育て環境を目指して、さらに力を尽くしたいと思います。



●公共施設のオープンリノベーション・・・

千葉県市原市

過疎化で廃校になった小学校を、地区の方々や、NPO団体の協力のもと、芸術活動の拠点として整備しました。その目的は

- ①都会の作家に創作スペースを提供し、周辺空き家に定住を促す。
- ②子ども達が自然と親しむ場所を提供する。(合宿やキャンプ)
- ③芸術祭やミニアート展などを継続的に行い、交流人口を増やし、市の活性化に繋げる。などです。今あるものを壊さずどう活かすか。どこの自治体でも取り組むべき課題です。



●子供たちに近見視力の検査を・・・

参議院会館にて厚生労働省に要望

黒板の文字は見えても手許の教科書の文字は見えにくい。そんな子どもたちが少なからずいます。そのような子どもは学力に支障をきたし、イジメの原因となる可能性があります。

そこで、参議院議員滝波氏の事務所に仲介の労をとっていただき、子ども達へ専用の検査機器を使つての検査を全国的に展開できないか。

という要望を行いました。



厚生労働省の見解は

- ①小児の視覚機能異常は理解できる。しかし、この専用機械、および測定方法がベストと学術的に証明されていない。
 - ②現在、各研究機関で取り組んでいる。沢山のデータが出てきた段階で方向性を決める。
 - ③鯖江市をはじめ、いくつかの自治体で取り組んでいることは承知している。今後も、各自治体でできることは継続をお願いし、データをお示し願いたい。
- とのこと。今後もNPO団体「みるみえる」とともに子ども達の視覚機能検査の充実の啓発に取り組んでまいります。

許佐羅江清水の環境整備

トミヨが棲める湧水の里復活プロジェクト

鯖江市は、市指定の文化財（史跡）である許佐羅江清水とトミヨの棲む湧水地を、本市の新たな自然のシンボルとして守り育てる基盤づくりを進めています。まず、梅花藻の繁茂を図り、そのうえで、トミヨの繁殖を試みていきます。

清流に白い梅花藻の花が見られる日を楽しみにしたいと思います。



あとかぎ

今回は議会報告と特別委員会の視察、会派の視察を取り上げて見ました。視察は、施策の勉強は勿論、訪れた市との親睦や鯖江市のPRも大切な役割です。これからも有意義な視察を心掛けていきます。大門 嘉和